

8万9百人市民の「明るい未来」を創ります

村木ひでゆき



発行：村木ひでゆき後援会

〒197-0801 あきる野市菅生 1456

TEL・FAX 042-559-2353

E-mail info@muraki-hideyuki.com

村木ひでゆき議会報告

- 高齢者福祉・介護計画の課題は
- 小中学校の学力・学習状況調査を踏まえて
- 菅生地域での公共下水道の進捗は

～平成三十年三月議会一般質問～

あきる野市議会三月定例会が2月20日から3月23日の日程で開催されました。今議会は、あきる野市民に直接関わる平成三十年度予算案を審議する重要な市議会でした。私村木は、高齢者、子ども、公共下水道に関わる三点について、一般質問を行いました。一般会計予算案については、私の所属する明るい未来を創る会の一員として、市の努力は評価しつつも武蔵引田駅北口区画整理事業特別会計への繰り出し金の計上があるためやむなく反対としました。

地域包括ケアシステムの積極推進を

市側から以下の四点が示されましたが、再質問を行い市長に對し、中長期的な施策が今必要で有ると質しました。

- ① 介護予防のできる地域づくり、重度化防止のための事業に取り組む
- ② 高齢者が地域の人と交流する機会づくりなど社会参加・生きがいづくりの支援に取り組む
- ③ 高齢化する介護者の負担の軽減のための相談体制の充実に取り組む
- ④ 地域ぐるみで支える仕組みづくりに取り組む

児童・生徒の学力の向上を

市側からは、測定できるのは学力の特定の一部分、教育活動の一側面であり、序列化や過度な競争が生じないような配慮も必要になっていて、都でも各自自治体の順位、平均正答数など公表をしないこと、一方この結果を踏まえた学力向上・学習改善計画を策定、加えて意識調査、学習時間、テレビなどの視聴時間データを関連づけ学習向上の取り組みを行っているとの答弁。再質問では、もっと地域人材の活用などを取り入れ、学力向上をめざすべきとの提案を行いました。

未整備地域の今後は

市側から、今回の整備計画の中で10年プランを立てているところだが、スタートは未決定であり財政状況を踏まえて実施していくとの答弁。引き続き、実現に向けて地元と取り組むことが必要です。

一般会計予算案には反対

村木ひでゆきの所属する市議会会派「明るい未来を創る会」は平成30年度一般会計予算案、あきる野市秋多都市計画事業武蔵引田駅北口土地区画整理事業特別会計予算案に反対をしました。

区画整理事業は、今日の人口減少社会到来の中で、果たしてこれに有効なのでしょうか。事業費約71億円の内訳は市の一般財源から約31億円、国から約16億円、都から約5億円、保留地換地処分金として16億円を充てるとしています。問題はいくつか有ります。保留地換地処分金は担保されているので、また起債をするので利子約5億9千万円が発生するのですが、今まで示されませんでした。市政運営全体を見る時に、評価すべきは評価をします。しかし区画整理事業施工には反対で有り、苦渋の選択となりましたが一般会計予算案にも反対せざるを得ませんでした。

あきる野市の現状

私は一年前に市議会へ復帰を果たしました。以降、あきる野市の課題について地元有権者、自治体関係者などと意見交換、懇談を重ね、中間的ではありますが、この中から見えてきた課題について以下にレポートをします。なお、これからこの現状などを踏まえ、魅力ある活力あるあきる野市のまちづくりへ政策を提言していきます。

域活力をいかにあげるのか

人口減少、事業所の減少、

若者の流出への策は

あきる野市の課題は一言でいえば地域の活力の低下。人口減少、事業所の減少、若者世代の流出などが止まらないことです。高齢化や後継者不足などにより農家の数も減少。市内唯一の大型公共施設である「あきる野とうきゅう」も空き店舗が目立っています。

さらに、五日市線の減便は地域の活力の低下に拍車をかけていますが、交通環境の改善などに向けた具体策は打ち出されていません。



三多摩でトップクラスの市の借金

◎人口、企業などの減少が止まらない中で、市の借金（市債）の返済比率（公債費負担比率）が多摩地域でもトップクラスです。

●公債費負担比率14.5%（平成28年度決算で東京都の市町村の平均は8.1%。あきる野市はワースト1！）

●財政力指数（税などの自主財源でどれだけ財政が賄えているかを示す）も0.730で清瀬市に次いでワースト2！（1を超えると自主財源で財政が賄えていることになる、東京都市町村の平均は0.981）

見えない企業誘致、

雇用促進策

◎明確な企業誘致策や雇用促進などの政策がないまま武蔵引田駅北口街区画整理事業などへの支出を増やし、将来展望が見えないまま借金が雪だるま式に膨らもうとしています。

子育て環境、女性の活躍など 若者も安心して暮らせる あきる野市を

◎平成21年から26年の世代別転出入を見ると20代から30代の転出が大幅に超過しています。子育て、勤労などの中心になる若者世代の流出が止まりません。就労、子育て環境などの改善が望まれます。

あきる野市と山一つ隔てた八王子市戸吹地区ではあきる野市にある圏央道インターチェンジのアクセスの良さを生かして五年以上に上前にトッパン・フォームズ、日清食品などの大企業誘致を実現しました。しかし、あきる野市では取り残されていると言っても過言では有りません。

市政への要望・ご意見など お寄せください。

村木ひでゆき後援会

〒197-0801 あきる野市菅生 1456

TEL・FAX 042-559-2535

E-mail info@muraki-hideyuki.com

村木ひでゆき プロフィール

昭和32年菅生にて生まれる

多西小・秋多中卒業

日野高校、慶応義塾大学卒業

昭和62年～平成9年秋川・あきる野市議会議員

平成12年社会福祉法人菅生会 創設

平成17年～平成27年あきる野市議会議員

趣味・特技 将棋、柔道（三段）

（現在）

総務委員会

下水道促進委員会

JR五日市線改善委員会

